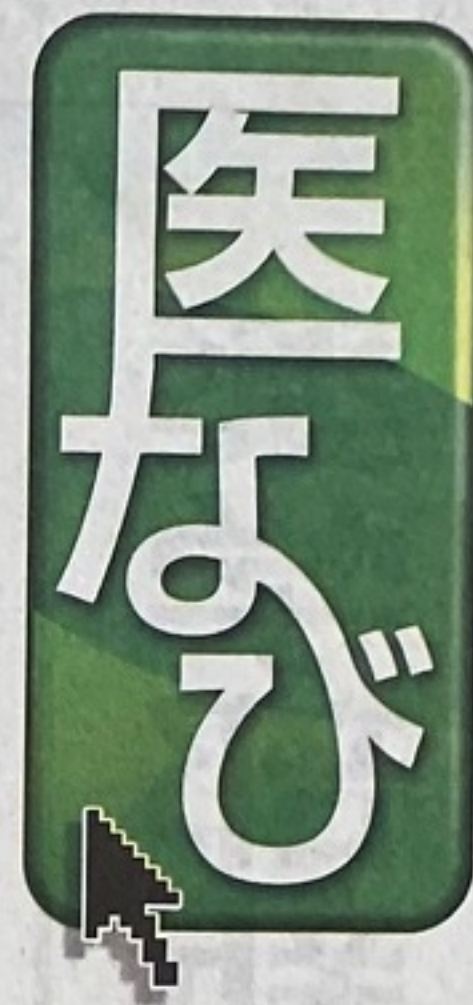


胃酸の刺激で粘膜に炎症



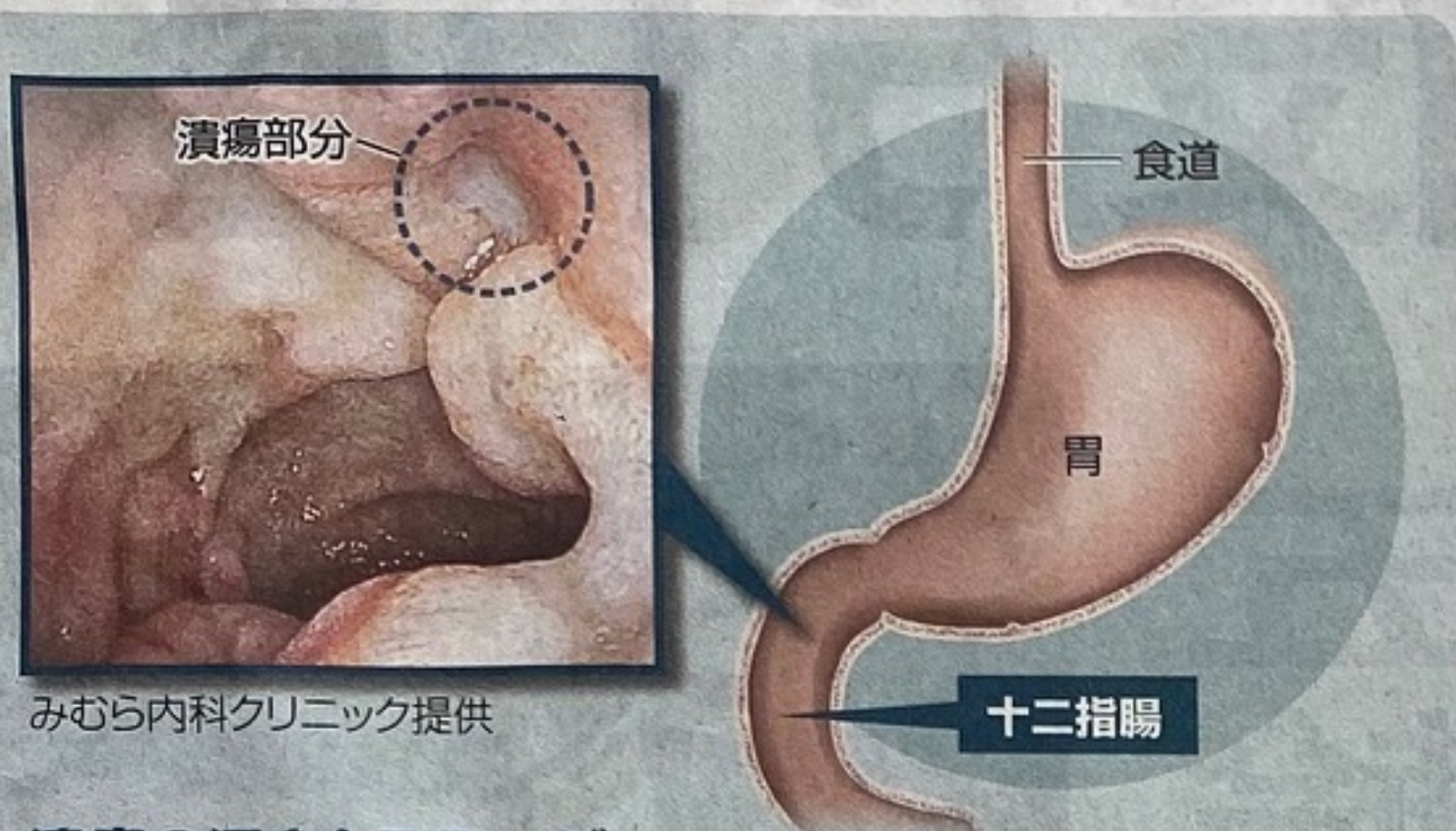
指を横に12本並べた長さ(約25cm)という名前の由来がある十二指腸には、胃から送られてきた食べ物にすい液や胆汁などの消化液を混ぜ、小腸に送る働きがあります。食べ物の消化に欠かせない重要な臓器ですが、胃酸の刺激で粘膜が傷つき、潰瘍が起きることがあります。

どんな症状?



(藤沢一紀)

十二指腸は胃の出口にあたる幽門からつながり、すい臓を囲むように「C」の形をしています。潰瘍の代表的症状は腹痛で、空腹時や早朝、夜間にもぞおち周辺が痛みます。再発を繰り返すと患部が



みむら内科クリニック提供

潰瘍の深さとステージ



主な症状 空腹時のみぞおちあたりの痛み要注意!!



症状が全くない人もいます。油断禁物!

十二指腸潰瘍

なぜ起きるの?



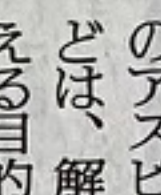
すばまって狭くなり、食べ物の通りが悪くなります。その結果、胃もたれや吐き気、食欲不振などを伴います。長く放置していると、出血したり、穴が開いたりします。出血が大量の場合、口から血を吐き、下血の場合はコーラルタールのような黒い便(タール便)が出ます。十二指腸は胃と比べて筋肉の層が薄く、穴が開きやすいため、緊急手術が必要となることもあります。一方で、症状が全くない人もいます。無症状だからといって安心はできません。

ピロリ菌感染、薬で除去を

主な原因は、ヘリコバクター・ピロリ菌(ピロリ菌)の感染です。感染により十二指腸の粘膜に慢性的な炎症が生じ、胃酸の刺激で潰瘍が起き

る一方、非ステロイド性抗炎症薬の副作用でも発症します。非ステロイド性抗炎症薬のアスピリンやロキソニンなどは、解熱、鎮痛、炎症を抑える目的で広く使われていますが、胃酸から粘膜を保護する物質を生成させにくくする働きもあり、潰瘍が起きやす

いといった副作用があります。ピロリ菌由来の潰瘍が減



る一方、非ステロイド性抗炎症薬が原因の潰瘍は増えていきます。このほか、原因不明の「特発性」もあります。

どう治すの?



確実に診断するなら、内視鏡検査です。潰瘍の状態から活動性や深さを評価し、ピロリ菌感染の有無も判断します。プロトンポンプ阻害薬という胃酸の分泌を抑える薬を6~8週間、内服することでほとんどの潰瘍は治癒します。ピロリ菌の感染を伴う場合は、除菌治療を行います。除菌に成功すると、再発はほぼなくなります。

積極的に内視鏡検査を受けて異常を早期発見することが予防の第一です。ピロリ菌の発見と除菌治療の確立で、この菌が原因だった難治性の潰瘍はほぼ治癒する疾患となりました。症状のある人はもちろん、無症状でも40歳以上の人は内視鏡検査を受けることをおすすめします。

■発症原因は

国立感染症研究所提供
ヘリコバクター・ピロリ菌に感染
→食べ物の口移しに注意

非ステロイド性抗炎症薬の副作用
アスピリン、ロキソニンなど

■治療や予防は

内視鏡でピロリ菌の感染を確認
→内服薬で除菌治療

非ステロイド性抗炎症薬が原因の場合は投薬中止も

趣味やスポーツでストレスを発散

喫煙や飲酒はほどほどに

三村純
みむら内科クリニック
院長(日本消化器内視鏡学会指導医)

*「医なび」では、身近な病気の知識や治療の情報をお伝えします。科学医療部 ファクス06・6361・0521、Eメールoykagaku@yomiuri.com

わいず倶楽部

●リステリア食中毒予防で妊娠中に避けたほうが良い食品

ナチュラルチーズ(加熱殺菌していないもの)

肉や魚のパテ

フレッシュサーモン

